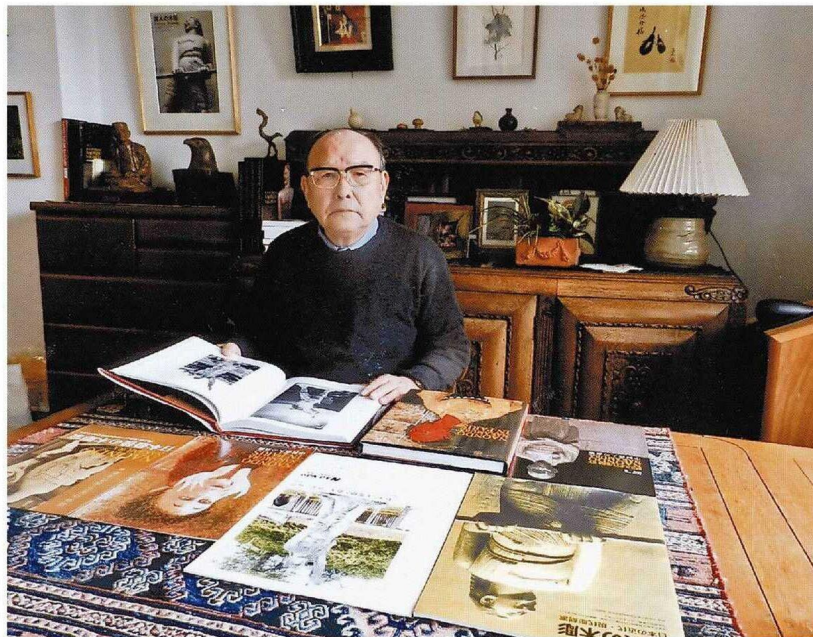


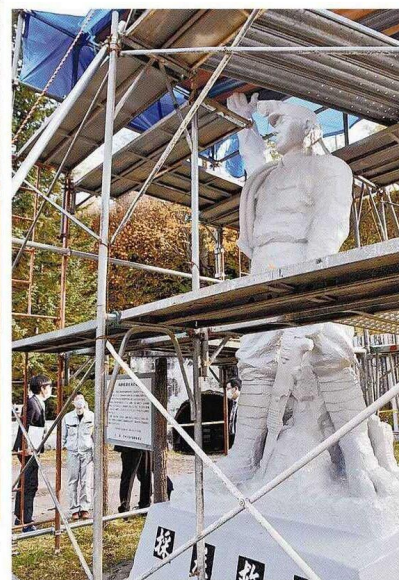
20201223 道央 (岩見沢・南空知)

# 救国坑夫の像を観光資源に



⑤採炭救国坑夫の像の魅力を語る相場啓介さん  
⑥修復が完了した採炭救国坑夫の像

## 中村直人彫刻絵画研・相場代表



中村直人彫刻絵画調査研  
究所代表の相場啓介さん  
(85)。像は日本遺産「炭鉄  
港」の構成文化財の一つで、  
戦時中の1944年(昭和  
19年)に中村や、後に文化  
勲章を受章した圓鋳勝三ら  
4人でつくる美術家集団  
「軍需生産美術推進隊」が  
製作した。石炭増産の奨励

## 「夕張の宝」修復喜ぶ

【夕張】市内にある「採炭救国坑夫の像」の制作者の一人である故中村直人(1905〜81年)の研究所を私的に開設している東京在住の男性が、今秋

に市が像を修復したことを喜んでいる。男性は、像は文化的価値が高いとして、観光資源としてもっと売り込んでいくべきだと主張する。(志村直)

が目的で、高さは3・6メートルのコンクリート製。  
相場さんによると、像は平安から鎌倉時代にかけて活躍した仏師「運慶」らの影響を受けた、推進隊のリーダー中村の作風が色濃く反映されているという。例えば坑夫の表情やゲートルを巻いた足などで、「目の輝き」足のとくまじきは運慶、中村の作品そのものだ「相場さん」とする。  
中村は夕張の像以外にも数多く、戦意を鼓舞するような作品を造り続けてきた。相場さんは「中村は国民の義務としてこうした作品を手がけた。それが理由で彫刻家としては戦後、日陰の道を歩むことになった」と分析する。  
ただ「才能は抜きんでいて、作品の持つ魅力は不変。中村の作品でも数少ない野外彫刻であるこの像は、もっと光が当たってもいい」と主張する。雨ざらしにならない形での保存や、「夕張の宝」としてのPR強化を求めている。  
像は経年劣化で傷みが激しかったことから、市が一部市民団体の寄付を加え381万円の予算を付け、9月下旬から1カ月かけてひび割れ箇所等特殊な樹脂を塗るなどの修復を行った。